

気候情報

2006年10月の日本の天候

気温高く日照時間多い（ほぼ全国）、
降水量かなり少ない（西日本、南西諸島）

10月の天気概況

月を通じて強い寒気の南下はなく、高気圧に覆われ晴れて暖かい日が多かったため、ほぼ全国的に気温が高かった。月平均気温は、西日本で1946年以降第2位、東日本では第3位の高い記録を更新した。ただし、北日本では中旬以降に寒気の影響を受けやすくなり、北海道では下旬に気温が低くなった。

台風第16号の接近に伴い、4日頃から本州の南岸に停滞した前線の活動が活発となった。また、6日から8日にかけては低気圧が急速に発達しながら本州の太平洋沿岸を北上したため、北・東日本太平洋側を中心に記録的な大雨となり、各地で大きな被害が発生した。22日から24日にかけては寒気を伴った低気圧が日本付近を通過し、関東地方では記録的な大雨となる所があった。

一方、西日本と南西諸島では低気圧や前線の活動が不活発で、高気圧に覆われて晴れの日が多かったため、降水量はかなり少なく、日照時間は多かった。月降水量は、西日本太平洋側で1946年以降第3位、南西諸島では第2位の少ない記録を更新した。

上旬：前半は本州の南岸に停滞した前線の影響で曇りや雨の日が多く、台風第16号の接近に伴い、4日頃から前線の活動が活発となった。また、6日から8日にかけては低気圧が急速に発達しながら本州の太平洋沿岸を北上した。このため、関東地方から北海道地方にかけての太平洋側で暴風となり、海上は大しけとなった。また、低気圧や前線の影響で北・東日本太平洋側を中心に記録的な大雨となり、各地で大きな被害が発生した。低気圧の通過後は晴れる所が多かったが、低気圧の後ろ側に流れ込む寒気の影響で長野県、岐阜県では山岳遭難も発生した。**旬平均気温**は、全国的に高かった。**旬降水量**は、北・東日本で多く、西日本日本海側で平年並、西日本太平洋側と南西諸島は少なかった。**旬日照時間**は、西日本日本海側で多く、北日本日本海側、東・西日本太平洋側と南西諸島で平年並、北日本太平洋側と東日本日本海側は少なかった。

中旬：北日本を寒冷前線が短い周期で通過した。このため、北海道日本海側とオホーツク海側は寒気の影響もあって曇りや雨または雷雨となる日もあったが、全国的に高気圧に覆われて晴れの日が続いた。**旬平均気温**は、北日本で平年並のほかは高かった。**旬降水量**は、北日本日本海側で平年並のほかは少なかった。**旬日照時間**は、全国的に多かった。

下旬：天気は数日の周期で変化し、低気圧の通過後は北海道を中心に寒気が入って、各地で初雪や初冠雪を観測した。なお、22日から24日にかけては寒気を伴った低気圧が日本付近を通過し、関東地方では記録

的な大雨となる所があった。**旬平均気温**は、北日本で平年並のほかは高かった。**旬降水量**は、北・東日本太平洋側で多く、東日本日本海側で平年並のほかは少なかった。**旬日照時間**は、北・東日本太平洋側で平年並のほかは多かった。

10月の気候統計

月平均気温：北海道では平年並だったが、東北地方から南西諸島にかけては高かった。特に、東日本と西日本ではかなり高く、平年を1°Cから2°C以上上回ったところが多かった。

月降水量：北日本と東日本太平洋側で多かった。特に、北日本太平洋側ではかなり多く、東北地方の一部では平年の300%以上となった。一方、東日本日本海側では少なく、西日本と南西諸島ではかなり少なかった。特に、九州から南西諸島にかけての一部では平年の10%未満となった。

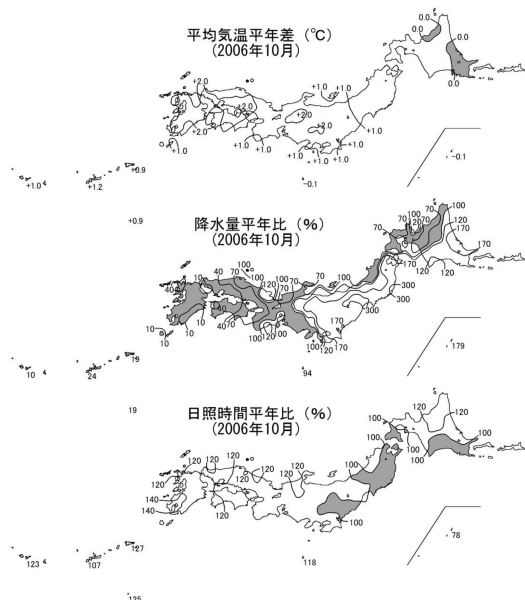
月間日照時間：北日本太平洋側で平年並だったほかは全国的に多く、北日本日本海側と南西諸島ではかなり多かった。

（気象庁観測部統計室）

10月の記録（1位更新のみ）

- ・月平均気温高い方から(°C)
神戸 20.7 高知 21.4 大分 20.3 熊本 21.2
鹿児島 23.2 など9地点
- ・月降水量少ない方から(mm)
大分 15.0 屋久島 24.0 宮古島 8.5 など7地点
- ・月間日照時間多い方から(時間)
北見枝幸 189.5 鹿児島 267.8 牛深 250.0
西表島 205.0 など9地点

2006年10月の平年差（比）図



注) 陰影の部分は、平年より低い（少ない）地域を示す。